

第19回 現代世界の系統地理的考察

■■ 資源と産業編 ■■

世界を結ぶ交通・通信を見てみよう

監修・講師

加賀美雅弘

学習のねらい

近代以降、鉄道や道路など交通の発達によって時間距離は縮小を続けてきた。最近では航空路が各地に張り巡らされ、短時間で地球規模の移動が実現されている。一方、通信技術の発達と通信網の整備によって、情報の伝達における時間距離はほとんど消滅している。その反面、情報量には地域間で差があり、地域格差を拡大させることにつながっている。

今回のポイント

- 世界の交通網の発達
- 情報と通信で結びつく世界
- 高度情報化社会における地域格差

■■ 世界の交通網の発達 ■■

離れた場所に人や物ができるだけ早く移動するために、交通機関が発達してきた。特に18世紀にイギリスの産業革命によって蒸気機関車がつくられて以来、19世紀には鉄道が発達し、次いで自動車が發明されたことによって、より多くの人や物が長距離を高速で移動できるようになった。さらに航空機の発達によって、それまでとは比較にならないほどのスピードで移動できるようになり、世界各地に短時間で行けるようになった。今や、大型のコンテナ船やタンカーによる貨物輸送の拡大、高速列車の運行や高速道路の整備、大型旅客機の就航などによって、地球規模での人と物の移動はますます活発になっている。

特に航空路が発達する中で、移動の中継点として多くの航空路が集まるハブ空港がある。アメリカ合衆国のニューヨークやシカゴ、フランスのパリやオランダのアムステルダム、タイのバンコクなどが世界のハブ空港として知られている。ハブ空港は、物流の拠点として経済の発展をもたらし、国や地域の経済を大きく成長させることから、世界各地でハブ空港になるための競争が激しくなっている。

■■ 情報と通信で結びつく世界 ■■

通信技術の発達は、情報の移動をきわめて容易にしている。19世紀に電信が発達して以来、海底ケーブルによる大陸間の電信や電話が可能になり、20世紀半ば以降は人工衛星を経由したテレビの衛星放送が実現するなど、通信技術の発達に伴って情報の移動は大きく推進されてきた。さらに近年は、インターネットによる通信が世界的に普及しており、情報を瞬時に伝え

ることが可能になっている。文書だけでなく映像や音声もリアルタイムで送受信できるなど、距離とは無関係に多くの情報が瞬時に得られる環境が出現した。自宅にしながらインターネットを利用した買い物も、ごく日常的に行われている。

離れた場所に移動するために、これまで鉄道や自動車、船や航空機などの交通機関を発達させて時間距離を縮める努力がなされてきたが、インターネットの普及とともに、今や世界各地の情報が瞬く間に流動する高度の情報社会が実現されつつある。

■■ 高度情報化社会における地域格差 ■■

現代は情報化が進んだ高度情報化社会であるとされるが、実際にはインターネットなどの整備が進んでいる地域とそうでない地域があり、人々が得る情報量は地域によって大きく異なっている。世界的にみると、先進地域と開発途上地域ではインターネットにアクセスできる人の割合に大きな隔たりがあり、開発途上地域では多くの人々が十分な情報を得ていないのが実情である。インターネットは今やさまざまな情報を得る手段であり、ビジネスや教育、福祉など人々の暮らしに大きな影響をもたらしている。そのため、こうした情報を得る機会が少ない開発途上地域では、経済発展がなかなか進まない状況にある。開発途上地域には ODA をはじめとする開発援助がなされているが、ネット環境の整備や情報機器の提供、情報技術の指導などが求められており、情報の地域差をいかに小さくするかが大きな課題になっている。